特別
へ5
6695

蛛巣

深川新和著

貴
15
6695

金華山鳳凰

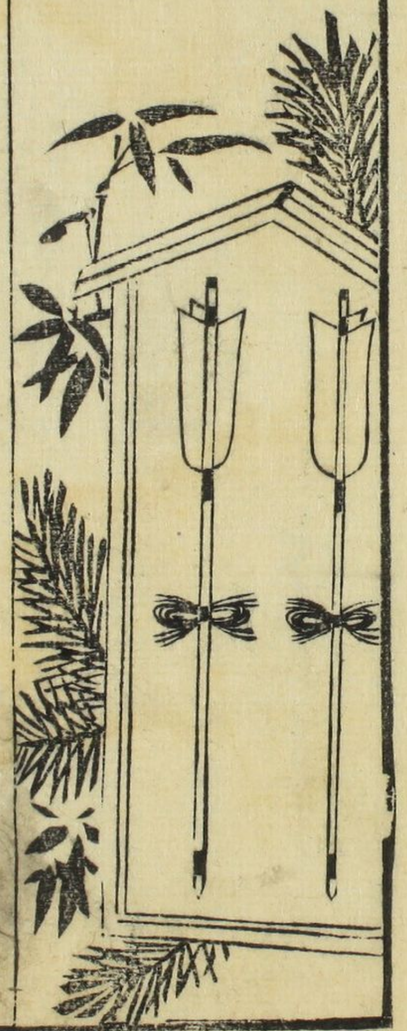
何れの物か高砂の尉
さゆらの松に出門の雪
何ひとつとめなく年の市

螢窗玉樓
祇徳

門松や世代も祝ふ冬ごもり　喩月堂

七五三　ちめん東風ふく其神と君　祇徳

年乃尾や笑ふも物乃物と仝



富ヶ岡乃矢ごろ業を祝ひつゝ
一舎七ツ八ツそゝけ乃雪乃ぶり　十光菴

あらたま乃富乃ぶ乃男山　硯明

くりうなる丑乃時うこ餅　祇徳

俳諧の図　狩書く師走乃仝

久蔵
仙來画

所々載くとゝ祝の日其扇
なも永田馬場出馬所始　祇徳

盃受世のたうとゝ多志まし　仝

米嵜の初日てゝく烏帽子
立版　田花菴
ゆ長　瀾長
永日春乃　祇徳
紋付く日の初　仝

福引の約束の縄こうせい　祇貞

繡

めでたき織物出正月　祇徳

きくたゝる方遠よりくる綱のくち　仝

式圓の水に隨て　柳机　祇徳

篠撥

きくたゝる雪の角見る峰　龍成

探幽も沈年書の　麗丁　銀雄

敷代の春天長地久　肘枕　達磨亭仙谷

みゝ穂てゝ君の門松　祇徳

ゆく年来る年車の栄倩　仝

若水の波立つかゝる今朝の春　祇宜

よい日のくしけ髪　祇徳

飾せ馬乃いとみや大三十日　仝

花よりも来ねうぐいすの恋の朝　紀春

恋しさの涙ぬぐはぬ袖の雪　祇徳

高砂の松根つゝ　松嶺子
のつゝこに光る松舞扇子　長谷寺
祇徳

柏堂ゝ　初日陰
きゝゝ恵方の松雪景雑　祇賀
祇徳
我門ゝ市をなりゝ　嘉善　魚　仝

勇ゝ山やまゝ　約束　祇栄
ちゝ　松ゝ　松指　署ゝ　窓　祇昌
祇徳
永年を積なゝ　市　二日　仝

日を清て千代ゝ　緑や　松ゝ　呉来
のゝ　色白　浮　松代ゝ　初雪
祇徳
松仲ゝ　生き合ゝ　師走　馬　仝

ことぶきのかつらをあらそ　友梧敬

波ゝ弓ゝ矢ゝ根ゝも梅ゝ家ゝ丸　祇旦
ひの出ゝむふ松屋蘇の面　祇徳

めてたしや波ゝ矢はて板ゝ　全

萬物ゝ〳〵きこえ　福寿亭日麓　祇翠
め松男松にむつむ松飾　祇徳

二ッまゝつゞ大黒得ゝ〳〵ゝ市　全

何ゝとゝゝ　むゝゝ丸し　むゝゝ玉　ゝ十
まつ稲荷〳〵松　恵方祭　祇徳

いそ〳〵ひ年ゝ　志　全

松ゝ葉ゝも曙染ゝ　晨女連里

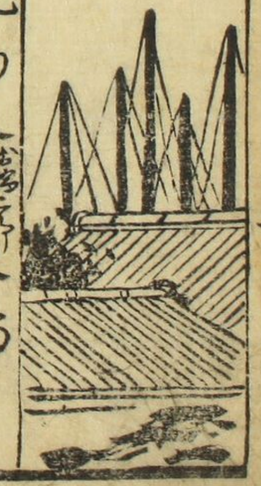
松竹ゝ初ゝ　初ゝゝ出　百花園　東子
つきせぬ百花園　祇徳

清ゝきて笑　晴〳〵ゝ　の樹　全

空も世をおくめ新しく花の春　永橋
いせのいろ宮の松門を松　祇徳

ゆくとしの代や雪をけ市の色　仝

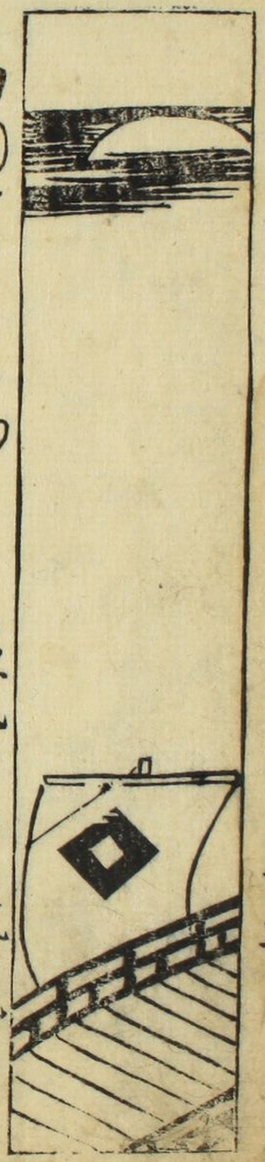
いくとせをふる光の笑や福寿艸　祇泉
くもりなきうつし出指南のとも　祇徳
いくとせを不老や寿の不改る　仝



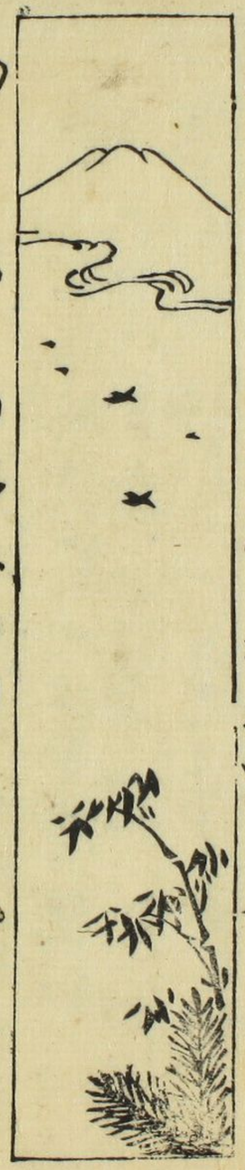
陸斗氏賞珠掛鯛や筆始　里紅
よろづよの野の松雑煮　祇徳
画の色箱されも春の道具うり　仝

軸

門ハさらわれも記　龍成
（龍村）
いしし尉の松庵鏡　祇徳
手乃初の富ハめでたし　松と星　仝



両國をわたる初ものの船代乃出　祇風
ゆるむ水ゆく実君を船乃　祇徳
時鳥に宴元し川崎歌乃機嫌　仝



わかうらや居乃松恩乃明の春　祇亮
ら羅紗や緋縅松まをはや　祇徳
手代尾や　三組立器乃　福禄寿　仝

軸

旧社後塚乃成まつりて忽年七五三出羽雲乃佳峯松乃
四方山乃錦色の法色八僧供歓迎雅子作門三逕乃松菊存ち
そ見んとゝさくら官位を慰さ　老叟改

立うゝるしや待得うゝ今釣乃出　水光
むつまじと居の松年始状　祇徳
苦めれし人乃歩乃歩や大三十日　仝

冬園舎

車井乃音も沼こうり　初よろ　猪徳
墨のうくたるけれく摺ひくやうと清為筆ふもて
ちりとけし硯きよあて為まちめ、

歌仙

柳さくらや道一もとの道祖神カ蔡　祇徳

柏堂二ツ雉子も二聲　丸室

樓ふとる萬里の法と唐ウきうつ　猪徳

所のさに松はなかり　茄雉

月入る秋なるも見うらさ　鰤山

蛙正　鱶

笠におほんてうの稲の出来　亀永

めてうつしとるれ根堅の　祇雪

反橋に炎餅賣りもなく　祇谷

石燈籠も細工流し　三千丸

語りても千家と見ゆる逢る雪　祇十

ついまきるく十徳の徳　斗龍

嘉雲

俤堂の仲間の祝なりもとの

矣数香の競馬多くの　祇鴎

乗手の一間の書る　唯誘　九爽

士義も義花出熊本の町　物外

物月入記る書ける　帝子の賦　満明

光信見ふ燭活の大木　五牛

庵を見て浦の島情の出の色　祇逸

毎日絶うの尼の書麦を　伯始

紫陽花も拵なり姿うれ　深雄

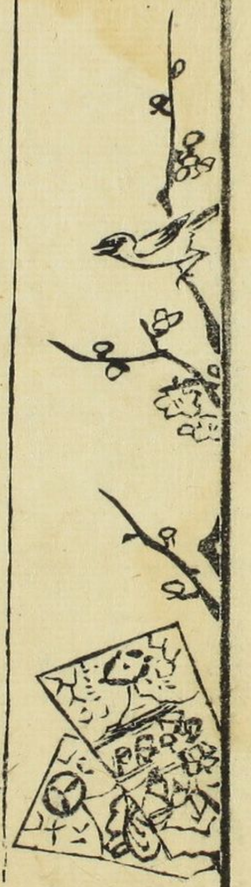
温泉場の春八拾狩川猟　千頂

和佛し宗桂の春おうれ　祇帆

経河の誘もの　共発

祇白

つゝ木に下早て見ゝ寺の鐘　秀義
毎尽あうて胴まさうく　万成
妙る間なたのめハるけうゝ　明湖
白粉の名まく　澤之丞
四条の灯いうゝ紀の月の空　橋雪
西仏二つてあまりつゝ　鎌年
ウ
相撲くゝり又前うけるとゝうゝ　祇鏡
丁石メくむさくゝ乃関　祇聽
けくゝんをたむさる谷底水　竹牙
わしれ町う臥沈つゝ語もも　可瓶
花さうゝ一乃鳥居る二の鳥居　馬馬
帯くゝらゝ花由外清浦　竹頌
仙来



常乃声まくゝ笑しつゝ乃雪　祇月
相撲る連ゝ松升　祇徳
文箱乃記ゝ為めてくゝ年乃られ　仝
羽る板る見付しゝ風乃むさうゝ心　祇蝶
相撲ゝ連ゝ松升　祇徳
のくゝ楚くゝ数くゝ見うゝ衣配ゝ　仝
遊茶るつくゝいさはくゝ初茶の湯　祇紅糸
三位る寿を吹ゝ乃寿　
相撲くゝ毛　毛遊くゝ松のくゝ

れ梵を見て立つるやいせの宮恵方

神意を叶ふ初詣の吉

祈り〳〵の矢壱万日うちいせまつり　仝

祇徳

ようきれの重て呼ぶ福寿草

松号始る出揚号　千林

〳〵寛来〳〵ひてる福の松　仝

祇徳

なのつうら五色〳〵ふりかけの

一番雛の出入の春　蘭十

祇徳

鬼さま〳〵物見車や厄はらい　仝

人の言の葉の〳〵初福寿草　仲秋敬

まちい扇子に〆出一句　樵下

祇徳

斜や〳〵樹芽う家着の〳〵ぬ　仝

元旦や我国にうつる紀宮戸川　紫十

翌日や朝日の宮もまれたるう

初雞の初うせの詠歌　松舞　かりんと

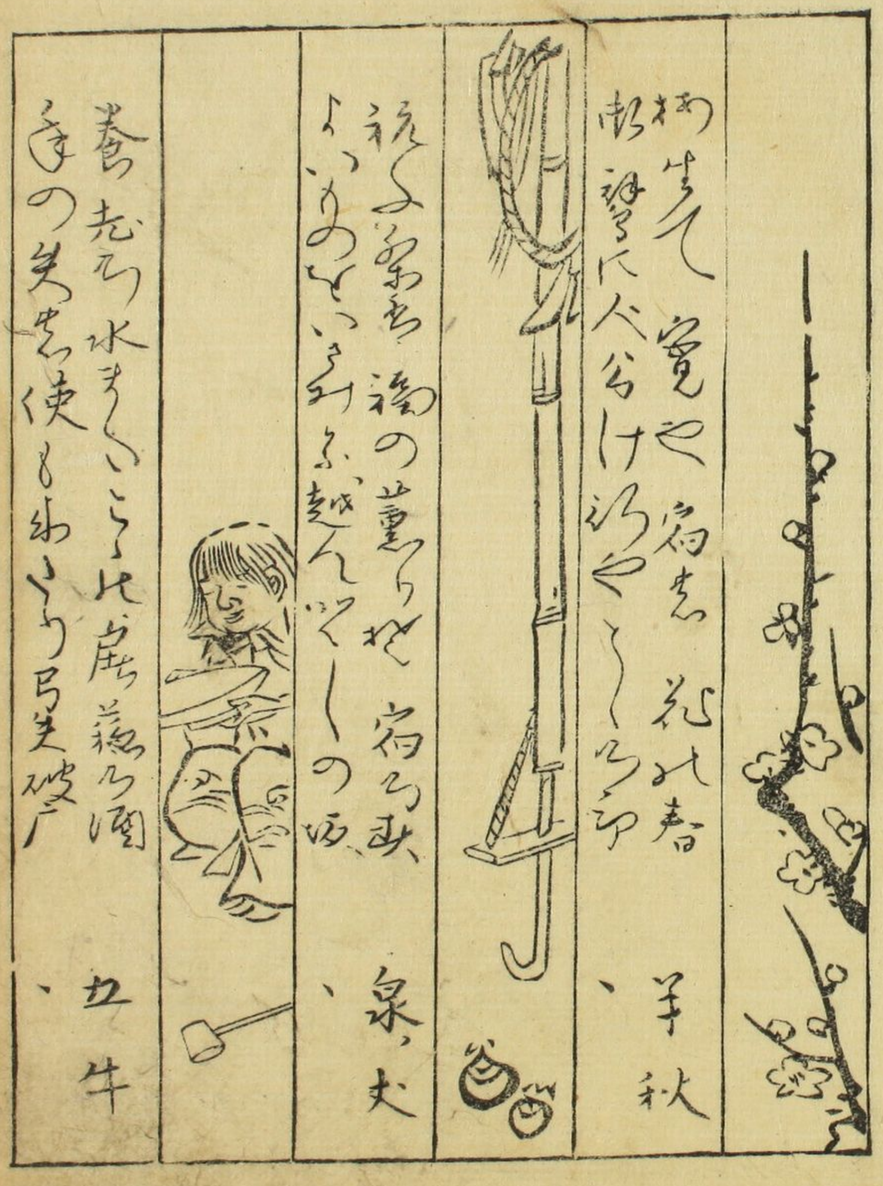
寄りし客は数寄屋るる雪

少若も富貴　つんつるてん　絞り　三橋

仲賀の配るうちうつ雪

物芋　寛や　富士　花は春　芋秋

部　警人　分け　ゆくゆくゆく



祝ふ家　福の董　富の秋　泉丈

よいものといふ越ゆくしの酒

養老の水　ゆくゆく　鹿の酒

主の美　使も　ゆくゆく　美破　五牛

去年の暮捨て捨てや今朝の春　餅山

餅つきの杵の音聞くたびに　六つの元

人もうらやむ笑みの春　餅年

大判を喪に出す呼ぶ

十分に寝ぼけ元春　兎玉

細井戸に出る時見る蛸の

母人の息ずるのやうなやすらぎ千代の春　祇鴻

ちゑ出やく行得しまの夫婦仁

義堂や義世千年の笑ひ書　祇岡

江戸中の笑ひ紙やうに出る市

昭兄舎

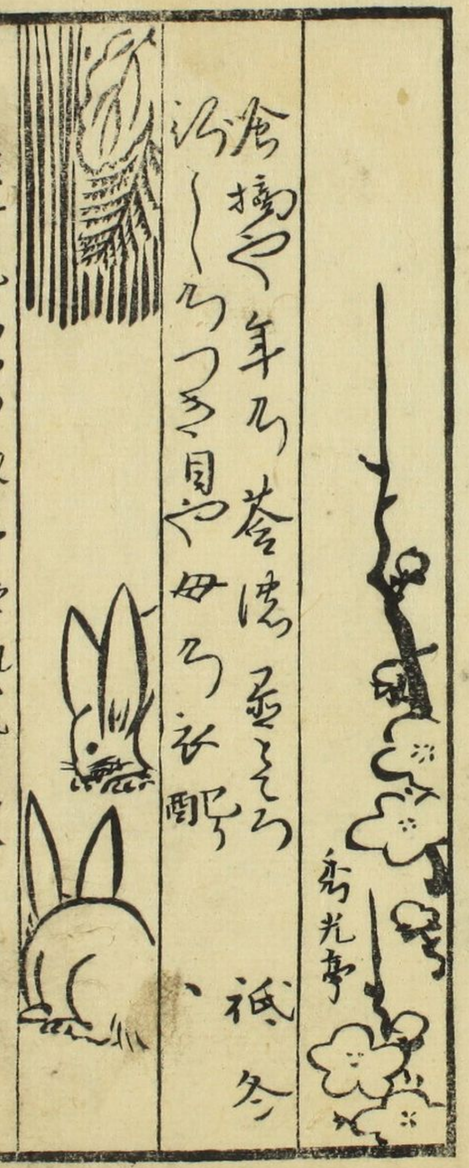
芳年の七達一位や浦の朝

花陰の巴る車やうに七番　祇十

うぐひす元日なる哉 咲るより
雪の留るこしもとれ　　満明

門松や淡うつる家の二ばら　　万成
羽根の中餅なれ手の餅

千秋万歳新年の第乃　雑煮祝
きくとくらや　毎宮の内式を写帽子　　天雲



秀光亭

酒掬や年乃蒼海　亟そろ
沈乃つゝ見や毋乃衣鄙　　祇冬

寅の正月元日卯やつれも卯年なれハ兎
ふ笑ゑ乃ワ乃幸やゝ子ゼ乃岩　　可鄙

元日や千里を訪も松乃道
きくはるや雪乃とまるも凉雲　　祇遊

卯の烏帽子を形どりて

金屏風は仙命の家の春
富貴草押し巻の奥に

祇聽

笹門入

白笹

けふよりもうつし我名の水鏡
春まもりて雀も躍る

祇鏡

らうそく一枝の幕の花の出
一しもの巻を清むる幕入れ

亀定

白柱菴

一釣子

大日本橋

如峰

白羽根の数なし
世を旅る出卯の
卯の

仙來画

扇箱は吸酒やく
天保の
冬扇

詞埋や 拝揚を
きり箱は巻を納めてこれを

祇白

天の戸もひらくや千代の初日の
若みどりなる松の新そら
福寿の空に至る徐釈迦の志ら
年つもる清や歳代の初わらい

半中　芦花

好和堂

親芋のまるまるとあるを雑煮に
祝ひもいろ面目もなし

一寸志　大晦日

むさし野や恵方志るしの雪富士
一休の年の失篇や大みそか

亂篠

こゝ門ん言にや門ま松の声

江東　歌笛

若水のようつるもはき笑ひ新
馬付や大根のあとの飾　松

角丸亭　高町

初鶏太く山日やよろけく
のふ牛も歩行つゝ年の市

友笑

元日こゝろ寅の起　巾

竹渓

鶯の恵山沢や伝ひ市
冬の菜まで一枝明まいつ新

梅鳥

こゝろ尾も牛庭て祝ひ年
蓬莱や山老野元鶏く

提泉

風尾仲や化粧して沢こゝ市
つゝとはるかの花松福寿

祇岳

借てつかはせ　車の輪
分ふも就に五十枝花の寄
年木樵所無めもち　柊の
みたの笑歌こまぬ則　福寄草
寄とまつ平の塗板を文め
をを打そつ笑ふ出寄や今戸橋
江連ぬくそよ年の新級坂
松風しあらに天窓
嗅て見よ鼻さの動め年の柳
わらはつむ乃そ雲を屋
す拂けぬ恵方のつへ始

仝

祇園　祇園　祇園　祇園　祇園
眠稚　鏡　扇　砂　糸
、　、　、　、　、
、　、　、　、　、

門松を高くも天乃原
鳥帽子ぬ伝ふ来やうも名
コリナチこのくらぬ飾内光
大小
を形よ柳めて　越ぬ年代罪
初霜の　四方乃春
掛乃見せし　余杯の達
吟つみの松も五葉やつ乃
、十八文乃寄をむうて
男山　松乃みうとそ乃寄
を乃そ乃むこ乃寄ま乃つ小垣
まつ花の笑歌を見こう　柳の寄
ぬそうこの人も笑を余寄柳

久蔵
、
掛橋
、
千寄
、
無名子

町民
一　和
、
有丸

大福やくもんすの蓋七明の歌　洞波

開いたて寿の巣の巣の巣　〃

門〳〵る松仲立寅の春　花笠

坂を越す其姫ひやく〳〵の京　〃

松飾り　君の歌　茅舎

月〳〵と斗あて立て大晦日　〃

君を流してたのもうし

君正月ためつめの門の家の書　祇文

仏を笑むさかる世代の巣書る　〃

おもつる雑る明ゆく世代の歌　四交

白へを習ふ〳〵年の初一重　〃

三月舎

小こ〳〵梅乃ちやい今朝の爽　梅茅

雪宮を示蒸小叶ふるめる　竹磨

今日すゝ鍛とのあ原御蒸　和風

仕舞ぶ夢　爽　仝

日宮月や千代を寿る鶴鮮　其禮

をり妙貢宮　雪妙鮮　蓮　仝

東る生純冥加や　初日　張　馬亭　馬

皆まめ手揃ふ　手倫夜の福茶ガ　仝

春雨の初花や屠蘇の酒　玉池
年波の数をこそ自由みそなはす足元なる扇の絵まや松の妻　仝　玉宇
掃除する塊の幕やとれ藝　仝

仝

玉藻は消えるとやいふ初夢の元旦なる日は光　其道亭保十　紙問舎来旭

仝

戴くや星と鳶帽子と雨滴夜　仝
今年の亀を知る夜ありとは書　仝　亀交
第巻の古者まれすの女　仝
花を待人ハ春とくとは梅　仝

新玉の古年名も化して花菜ず　一桑路　祇桑
光陰の牛波歩ハ乃ゆくは蓋　仝
元日や春を自由の波の通り　松十
年波の通り花くし　仝

花の小鶴の春ゆく車井戸　播雪
年の市塔と春を掃除者　仝
福壽艸咲や天下は妻波色　おん
営や色も春ハ花ハ波ハ　仝
百の代や春も見き玉は妻　祇貢
松建立掃ハ五百年の窪　仝
物ノ示情きゆくや松ハ　蘭臺

根ょ戻る赤くも又咲く花の夾　玉蟾
紙の女もさをくるる年支度　仝

六十甲子春迎面

醉花齋

鄂陽社江も磨ぎ穢ちん三の朝　崔子
鮎買ひく賣ょめてる手の市　仝

松笠堂

澍くしくしき出る富士や神霊　玉時雨
聖日暮く年は剥ゞ福壽草　仝

九與舎

君が代乃門ゝ松ゝ福寿草
語合て高ゝ寿ゝ乃市　和雄

拍歳春画

神田橋ゝつゝ梅ゝ松の雲
ゝ乃登ま茅ゝ花ゝ乃年ゝ坂　田鏡

自徳菴

高砂乃磯ゝ辺ゝ明ゝ春
ゝ乃ゝ納ゝや坊ゝ乃ゝ
たゝこゝを磯ゝ乃ゝ

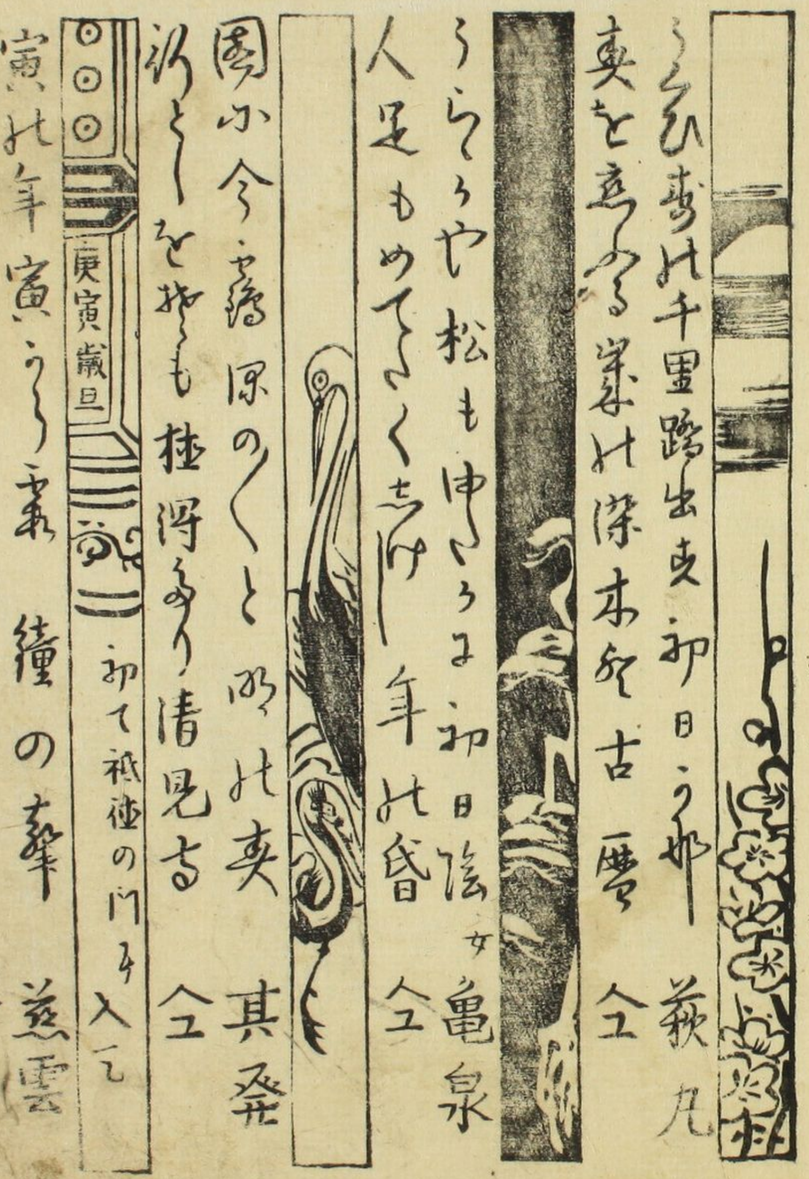
三子丸

杭矢菴

皮空や霧の舞ふ初日かな　鮮く
ゆるきを祈者やちん　詩歌町

俵ばかりつめもちもたくさんの藁　秀義
明ぬるやうたがきうら年の市

君命ならば
祇園乃門に入る　出詩祇
蓮葉のはしめて数や君の恩　祇谷
破廣ひや年乃間所乃貢哉



ゑひ喜れ千里路出吏初日うゝ如　萩丸
哀を高ゝる家れ深未だ古麿　仝

うらゝや松も申うゝ初日法女　亀泉
人足もめてゝくゝ年れ昏　仝

園小今露原のくゝと明れ哀　其桑
沢ゝを拾も拙浮ゝ清見古　仝

庚寅歳旦

寅れ年寅うゝ素　種の華　慈雲
年の戸をゝくゝ雞ハ鳴ゝ　仝

心を磨く玉ものゝ数や初日浪　竹賀
うゐまめて除夜の酒高や年儲　仝

三祝

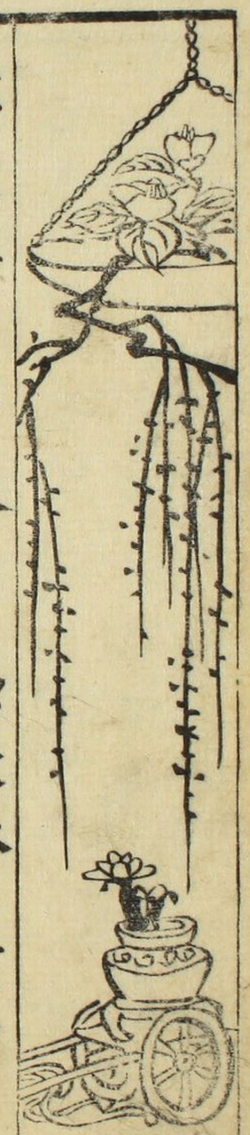
吉例　上巳

年くやはつめ市廣う　汁龍
祝悦は厚きもうそや来れ爽　仝
清涼の与〻風所や年れ閑　仝

先ふくむ物の始やうりまる　稲波
雪降〻雪霜み年れはこゝ数　仝
時降〻り枯〻る木みも花の爽　梧栖
堰あてる山〻山師〻〻純　仝

花とこ爽時リ空ヤ爽れ色　物外
おそ〻〻ヤ除走れ月小又老如　仝

元日は時計を来波柱の事　言風
土圭ゑハ春　紙へ多り大晦日　仝
老松は〻ひ〻も子日可南　古自在庵門　風徳
学や竹の巣籠多こも星　仝



船ハ陸をき車ハ金ゝ吸ひ春 青々
十五童子 紙御画ひ双六 祇徳

玄盃の玄めくゝ日ありとゝの巻 仝

人こゝろ地今ゝひ吸ひ雲 芦舟
柳も玄し〳〵御神引糸 祇徳
船まゝく揚小きこゝる師走 仝

初鐘乃声にはゝゝ手代乃寄女其水
虹家の冨ゝ波ゝ戸ゝ板 祇徳
そゝ汚ゝ明ゝいん年ゝ地ゝ 仝

初ゝ新ゝ福寿 寅ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ 祇徳
千里一歩乃虹寿詞 祇徳
思ゝこゝ気ゝ乃ゝ〳〵ゝ 仝

回年宋頌を祝寿迄に大字を書く
たたに孫を愛しして

鶴亀の孫も栄へ　国乃寿　水藩　園小川

今朝庭篝の間に男子を設て初音を聞く　亀乃小盃　寿

賀　新家始めて亀の　亀童　亀遊

賦何信　富潤屋　漁閨身

富士の八つもの峯の雪　小川　寿女

松と共に生る　亀遊

大文字を見ても寿福乃来て

法眼栄川の筆にて中華安仙人九右
松竹を画く父母の百歳を寿き侍の文字を賜ふ

亀の如く千歳久人能歳宋　仝

寿を祝ふ二を隠す鹿子下　前江

ゝ乃流の流て春も暮ゝ尺　、

目引

花柳や幸門乃松と共に　太申

ゝ花内る柳を小指や泡戸村　、

仝

天神の姿ゝと明乃去　祇園

代ゝ乃ゝ寿みの乃ゝ　、

三　目

千代を祝て千代ゝ乃寅の去　文鶴

第乃徳をあゝつ寸枝なり大阪口　、

賞や　関れ去て　菊乃柳　、

江の島や波の花ちく玉の春　魯永

鎌くらや鎖わつうつもつ　〃

多賀つく数や千代の花の蕊　祇調

豊年の市や市なる笑高　祇山

門松や祝ふ人の業高　〃

鶴の内声きつ鶴くそう笑ひ　〃

千代うけて出るとしや門師　祇蓬

老る馬に鞭のいさみや年の暮　〃

我見ても回し初木や門ふつ

住ふつ炉掛けつ神て詠　祇角

門師うれまを父母や民の春　〃

門松や祝ふ二見の松の蔭　蒙支

塞の目にうるふ流や年の波　〃

松竹や千代祝せつ門の蔭　山橋

尋ふ来まつ角髪　〃

男山ふ見る目訂の師　東籠

大黒のまし物を掛やの陰　女　春山

掛茶屋まさく後者を　祇徳

陽花のさうらや富のうしろ山　仝

中乃ふりもてこしかの門錦　女　花鳥

年しつゝ忘れぬ物しこ書こ　〃

初夢やこゝに一富士太郎月　女　錦光

元少のうの書こて　〃

琴ゝゝ門松うゝ　女　曽恵

こ陽乃調るもとゝの一枝ゝ　〃

御肇　祝

是にうゝる年乃始や新けう　風但

いつまても海元の数ゝこゝれ　〃

ゝる亀やなゝいゝ明の春　吟會

ゝゝしや松もかるゝの春　〃

君豊臣も彼しゝ子孫代の春　沾文

金の御世異ひろし大時口　〃

万葉乃名こゝ積き年の春　秀禾

初春元買ゝて新ゝ年乃市　〃

初空や田子乃浦つゝ新ゝ山　白雪

小松こも果敷まつ為ゝ年一枝　〃

秋の明てけさの風や福寿艸　西仲
年の尾に化わるゝ白毛哉　〃
ゆくとしの去年に焚るや初口さく　松光
永日や代々貢告るゝ雪　〃
萬代や我大君の國の春　花慶
待んでも笑上戸や年忘坂　〃
冬閉て窓やひらけば梅の蕾　〃
花も実も捨て梅の初口哉　不舎
世事器ちよつと駈さる年の朝　〃
歳暮を思うて恵や大うち　砂橋
改るこゝろやすぐ〳〵秋　〃
恵方うら恵方へ向て拝ぶ　山石

黄金の笑顔見せうら除秋の花　〃
弦音も二千里の外弓ばり地　湖雪
金銀を矢ばこ〳〵ばり大晦日　〃
まつ花のゆくゝ始や福寿草　蕙志
買〳〵ぶり目の玉ばかり〳〵の初　〃
福寿艸　得〳〵やり　玉の春　華端
光陰も流るゝうちまて〳〵の春　〃
むつまじくみれば梅桐や松のうち　可暁
おゝ家と越てやちゝ年九月　〃

花も実も調ゝ為ばそめ　沾禾
年波のかしつゝ鶴の坂　〃

鈴子代や君のゆくすゑを　春呂
木こからす送るや年の梅　椿　〃
松竹の夫婦中より千代の春　西笠
ちる龜し門に松くやくれ　〃
沖なる造酒のまうけの寿　湖水
改し名やくもの隠し塗状の酒　〃
わらの玉の書こかれる江戸謡　和星
先喜し年代拝の鞠うて　〃
元日祝ふや千代のうみ餅　咏斜
百こうもちもちしなるうるの　〃
万年の寿祝ふ福寿草　嘉幸
砂まくも初ふうやく鞠場の　其井

大紋の袖さうる初ふる　虎雅
花を菜や代く神の福祭　祇水
未熟代こうもし宮代の春　冉羽
沈こうの松る鶴の寿　〃
三面の門や松こうや　祇三
鶴城こうちくもの花の春　伝笑
花生に先受初つ明き春　一夢
蝶拝ふて蕾に雪の會　〃
羽子板の寿羽重　明の春　露莖
まの間もの子に節奉以　〃
唐子の子の花の春　祇水
人の足次第にやき師走　〃

梅咲や福多ク畑も人通り　祇船
春立や鍬の後ろ小袖ゆり　紀迪
ゆゝしふ馬や紫乃戸り馬　〃

福寿艸四位の位あり名の詩　林桃
梅ゑ乃力成り春の宮　〃
初霞や日本国を相ゝめ　扇濤
こゝろ乃ゝ花ゝやいろ人涂状乃梅　〃
先むうゝふこゝを恵方や花乃春　和昏
四つの海波しゝつゝるゝの春　〃
咲つゝやうつのゝまゝも海光ゝ緋　素鏡
子宴や日四乃ゝむ年乃市　〃

福禄寿ゝ乃ゝ乃ゝ三つ乃ゝ乃ゝ乃ゝん　樂水
天も感恵方乃梅　祇徳
唐土ゝ乃ゝ乃ゝゆゝんゝ　〃
未廣や虎まて靡く世代の春　扇郎
地色ゝ物金ゝ画始乃出画　祇徳
まゝ清や春ゝ冠乃男　山〃
元日や芸ゝ芸ゝ大和ゝ　璋美
人も感しつ出家賞　祇徳
ゝゝゝ乃ゝ積や福寿乃苗乃ゝ　〃

よく来よとよふや春告声　福寿子

一もし此操幾年松乃花　女　瞻水

、

実も味も得らる自家の玉の春　巽我

苔やふかき松の恵方や書業　素交

日の色や弥栄もゆるぎの松の春　其跡

明るき恵乃輪飾秋津國　鐘泥

唐までも大和詞の御慶かな　羅薫

数畫の百轉や寿恵酒　梛湾

初空やこれ乃千代乃萬年帋　甫橋

まつろうら笑つけや笑　尉　鷺渕

神こゝに二たび迎へや花乃春　平安

騒くらぬ幾代めぐりの君か春　棋潮

年暮

来る年や雲に暮れつゝ帆掛松　巽我

帆乃みけ[illegible]詠らる　素交

湧出[illegible]に　其跡

錦にも倉廩満て年くれぬ　誰岨

墨書松小寒ふ売門　羅蘭

恩澤や師走廿日も富貴草　梛湾

貞徳や備ふとしての餝鍋　甫橋

大黒を迎へんて[illegible]市　鷺渕

神の世の[illegible]　平安

要まつや松てゝ義松男松　松潮

福寿を年も七十二度　分銭

一家こゝろ人明ふる　其外

門並もゝ初ゝ　二はら　湖竹和

若あや様と　佐ふて四方人笑　可曳

人参乃毒けや民乃ゝ寿草　花亭

ひゝきゝ豊に年もゝ笑　千夕

美代乃祝ひう　芋頭　鳥程

明ゝと告ゝ乃初笑新　文春

民艸乃ゝ　花乃寿　忠飛

ワゝ水やゝ　花乃寿　春角

門松ゝ元宴調ゝあゝ　風水

横雲や宴佐保姫乃初子紋　雪貢

春ゝや咲と福寿花の富　蕉和

三笑も元の富士乃ゝ笑　蕉士

物物寿小紋　礼小袖　風虎

おさゝや蒼生乃はつの子　金壽改　物舎

天地の的ゝ老人福寿　松洞

羽ゝゝや百千萬乃遠初　佳水

ゝ人気ゝ日新ゝ保乃初緑　策馬

義餅ゝ富士ゝ書茶ゝ　嘉岸

乃ゝ山乃ゝ神松初乃新　文泉

義千年ゝ人ゝはつ日ゝ　湖連

姫國や[illegible]の福寿や世の姫　故郷
漁せし釣舟や家の寄　拙夫

年始

火焼うち雪消の亀の勇ましう　分福
[illegible]の宿八年仕舞　其外
消うきて[illegible]の根や寒の涙　[illegible]和
仰くなるみ[illegible]引　可曉
[illegible]門の鶴[illegible]　元亭
[illegible]川端や中[illegible]　千夕
[illegible]元や大黒[illegible]白和幣　烏程
又[illegible]年の答うれし　文春
[illegible]の[illegible]や初の[illegible]　[illegible]

月花の[illegible]ふ[illegible]年忘　春角
[illegible]声や[illegible]大工　風石
沢山に貢や[illegible]の雪　蕉和
節季も[illegible]山[illegible]　雪貢
年を前[illegible]年[illegible]男　徒水
[illegible]　杉洞
雪や[illegible]信[illegible]　杉舎
[illegible]の[illegible]の音　風鳥
花[illegible]下画[illegible]見[illegible]　箕馬
[illegible]の三[illegible]嬶[illegible]　蘭士
嬶嫁も掃て[illegible]年[illegible]　[illegible]
[illegible]積[illegible]冨士の雪　文泉

蓑売れし水書ちう　年去宿　湖連
松乃精なれもそなたに親に　故暁
年寄や　汐のいり目乃市急　梅之

天鳥ふ舟く暖や　家乃妻　歳蘭
亭馬の髪ゆ　深沢乃さみし
菊枯雪くしめて　解つ花や春　月集
殿に添て湯の福の男　梅乃新
年の尾やくしれの学ぶ
急も年くふ　明乃妻　路成
むめ咲くや　皆乃笑も　解
すくれに師走陽ひ

大小をもて　福寿草　沐南
いつちゆく　師走　枯分け草　野郎
幾千年　新年　匂ふ明乃　望月　色　山
梅乃実乃　雪めしあり　梅つる
元日や　二本ゆて　雑煮　豊山
東六の　勇や　深沢　烏帽子　野
初しぐれ　咲　日那の　福寿草　田子
初唐大く　書ハ　萬よし　秀丁
宝くふ　しも　告げつる　年乃市

寿や　菊川町乃　唐藤の　味　桂夕
松くて　宝　知る　年乃　蓑

福鍋や玉のこゑ代々永世帯　清室

気も八千代と淋しき宿かな　、

蓬莱や根深き松の千代こもる　玉砂

弗二日女房もともに乙羽織　、

春もののまく上へあゆむ松葉かな　永田

君が代や御高し松の花　亀濡

年車へ行きて田畑とし此鶴　、

元日やつもる数へつる千代の数　日杯

時酒日も一ツいろく　堤柳の酒　、

元朝揃ふ人々年のもちき田代かな　残花

孫の外あかましても師走かな　、

家くに高砂をうたふ元朝の春　鷺屋

元日や扇子ひらけば宝山　始玩

元日や手もつゞく花の春　春光

若水の世や驚くと松林　亀玉

若の蝶や先拂ひ大夫　杉才

雀鳴て千代を揃れ門の松　竹翠

上下の人も笑顔や三ツの朝　吟車

我君の笑顔を見うる福寿草　桂鯉

、

遅めしく釜の光や元朝の松　玉志

千代と言ふ代もふる門の松　祇孫

潤ひあれや二ツ千金の光の春　緑袂

大會歌
鄉連

橋場村の閑室に出でむかうて

清水寺の つきぬ人見せもの 蕾の花　宗成

ふるさとの 方へ向かうて 歌せうか　、

松什の正中くさるは 光の 緑　十橋

富士の山 大の みとりも 清く 冴　、

うかぶ雲 はる雲 白雲の 硯 うつ　来徳

世の人 相似 うつと 市　、

光の 光明 主 人も 相の 恩　心峨

まちくて 晴の 岩くらの 紅　、

橋の 空 ゆ 明の 雲　桂舎

月の 沖 星 少 ゆ 大 あり　、

和例 之 吟

地こ 人 柏 浮 うす 代 雲　文治

四 波 つ ふ 松 ゆ 雲　、

和例 之 吟

風 の 声 ゆ 門 柳　柏筒

風 の 声 ゆ 花 の 香　、

一 も の 紅 の 色 失 ぬ　東里

一 も の 紅 の 色 失 ぬ　、

ち 之 し 鄙 の 菜　豊調

十 夏 稲 の 雲 の 月 あ ら　、

京始や名も玉湯の梅ぶし　蕓爾

春まつや堂に穴子神田川　、

一事に寿書くや明　鈴　松有

まとゝ立ちよりて雪うれ　、

礼帖の初を書名も家例に　祇蘭

寺崎もりけて清め線香の和　、

幕明けや七福神や花の雲　涙和

打ぬしは敷や座敷の人をり　、

雪の谷よりめて花雲春　鈴蝦

酒中花や杯をとゝめ雪雲　、

菱餅よ牡丹屋の咲の鏡もち　信夕

餅つきや九曜の星とく梅取　、

風凪の明け伸ス俳や門錦　花徑

孔雀の尾ら切の巣の巣賀　、

門松や広目鷲連理も　錦川

縄なわの松言めくや葦索　、

軸

等閑に我も花の雲　成春

事まつやうの師走も静　、

両節

内外の琴や男や門の松　村松

ひとこと言ひもつ雲や汚　、

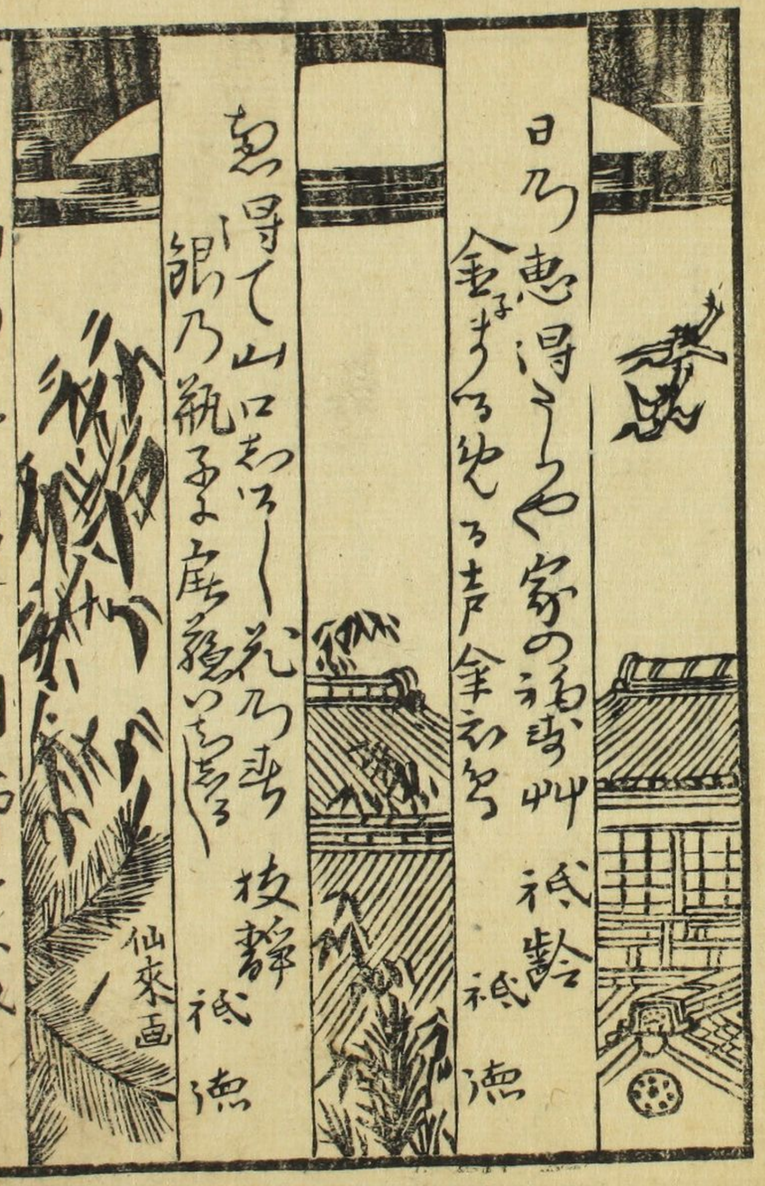
去年法華を聞て物くれ

酒煙草我歌れ里花雲　右弦

元日の寿けの松と共
天祥の万ん年の大吹る
飾米七千里の歳寅の春　祇仲
年の市立ち戸道と戸道
八重一重こう咲つ花の春　義水
福の宝の宝橘買得る年の市
孫の繁こうつ花の春　滋澤
国の宝に宝松あり宮の春　小龍
あらたまの一年侍る萬よ〳〵　五町

日の恵得うつく家の福神　祇齢
金まる色る声金の音　祇徳

恵得て山口おろし花の春　枝静
銀の瓶手よ庭鶯の声　祇徳



寿亀の糸もあれて門飾　芋成
栄の山ちく冷橋の松　祇徳

[illegible]みてうる昇う呼を福寿艸　松架
詩永樂乃永さの　祇徳

をゝゝのうけんハ唐乃ゝ[illegible]ゝ

入紅や千艘乃艘ゝうゝ紅　如賀女
酒蓋ひまつ元日乃造酒　祇徳

[illegible]亀[illegible]てうきあらしつゝかいのこと
ゝこひうゝ[illegible]ゝ当まれもの歌ゝ[illegible]

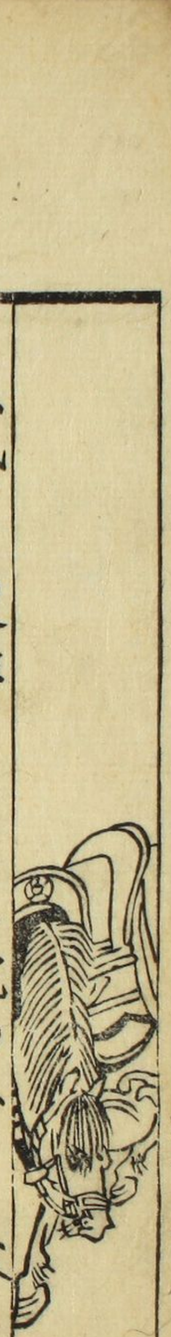
元日や富士と筑波と二柱　千頂女
越ゝ式詩の猛も赤いゝ

祖父自嘲家ゝの名を明りけまゝ　柏葉秋
蓬莱ゝよりゝ名を唱ゝう年男　仙来
今ひゝゝ彭祖も入よゝく拂ゝ
書初や天筆和合楽ゝ　女鶴勾
琴淳よゝゝ乃もゝくゝ門乃松ゝ

司馬徽の詞もなを出ゝゝこゝ　立流
雑炊女もゝゝと言ゝ[illegible]の魂　立徳
唱や出花元日乃咲ゝ　祇徳
猿うゝをゝゝゝ[illegible]ゝ乃爺木樵ゝ

武さしの江戸はさまて花の春　祇雲

雪を見るてのこの別れ〳〵もあり



元日に去年のいせの暮うれ　深雄

積とて若まつ宿や　朱佳

明和七庚寅暦

軸

千金を高く声や　初鳥　九室

ゆ〳〵のこゑんホのうゝけ鶯

追加

につこうと笑ふ恵のほや　福寿艸　祇景

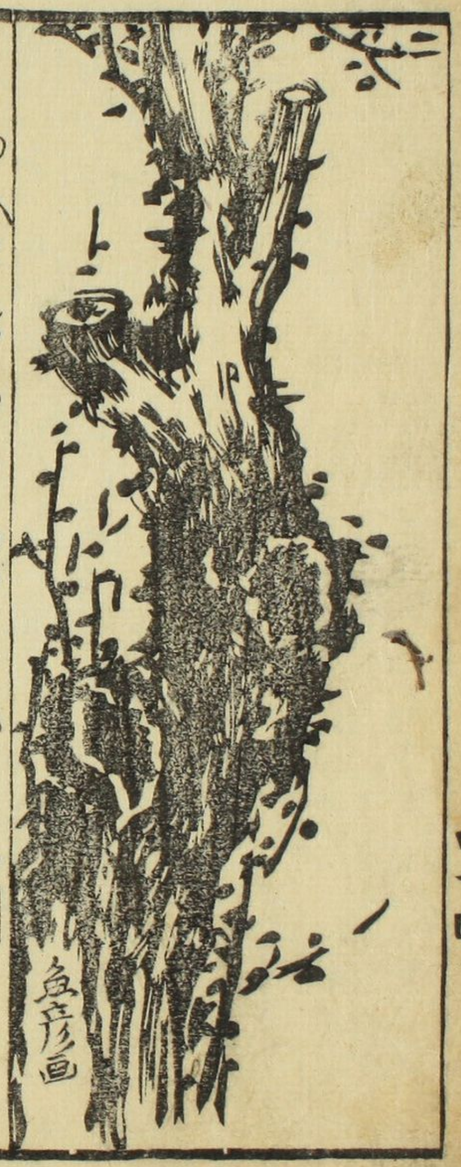
日さしは〳〵と松居何もの　祇徳

投入も若水梅や年の波

織得ゝの梅や咲　仙来亜

蒙求の讀始つる　雀の子　楚桐

唐縮まつる紅梅の大三十日



梅さくなかやこゝろあり白い雪魚淵
ちゝ母やゝ文載落るみかわ川　祇貞
早乙女のまうゝ見ゆる新菜摘　湖東
雪解ゝ立隣ゝのそゝ梅ゝ　彩潮
蛍もちうゝ梅咲てやれきる強る秋明々邦　陣明

よゝ見まゝ梅も腦ゝ日向ゝ　時人
梅ゝ香ゝ風ゝ笙ゝ声　祇春
一樽ゝ酒ゝ月ゝ　祇旦
艶ゝ話ゝ梅ゝ　祇九
ゝ見ゝ梅ゝ蕾ゝ　祇昌
冴ゝけゝ小松ゝ　江水
降雪ゝ梅ゝ　山谷
この衣ゝ袖ゝ　銀鶯
ゝ東ゝ　祇徳
明星ゝ梅ゝ　立徳

鶯や古風ワもちんめくらめ乃声　祇雲

菜乃花ハ[illegible]まゐ蝶も答ふれ　松人改　但栞

文車乃ゆ[illegible]ん詠の雪　治峨

又ゆんと揺こもちさるつるの邪　其鶴

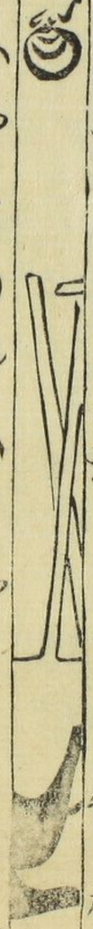
波しつゝ[illegible]ゝ八巾　祇桑

くつ雪を吉ハして見る新菜哉　宮石

玉箒や[illegible]駒なんも飾せて　亀菜

数りせて撞樓の梅乃さうゝ　祇岳

若人を柏つよく舞ゝ梅乃と　竹頌



四うくもや笠乃新さく月乃種　一丸

う[illegible]ゝ[illegible]ゝ花乃一番ゝ梅の色　樓川

咲こもて[illegible]ゝ雪ハ梅　雞口

連句師の梅さく宿を俳[illegible]　在轉

[illegible]ゝ紙ゝ[illegible]ゝ芦の雑　小知

[illegible]井や梅形[illegible]ゝ[illegible]ゝ　金洞

消のゆる雪ハ上野ハゝめ花　夫天

春色

梅乃紋ハ年忘れゝ下屋敷　松家

一輪よもろこしゝ梅の色　文魚

ゝゝ[illegible]すゝ金の札や行ゝ　今堂

梅の香ハ元旦の春に咲ける　阿誰
柳吹く風も樵夫も斧を枝　淅江

兩節

其儀や御かゝ志すや初まつり　其言
君と合ひて部師の爲や燈籠　、

春祝

富部川に其名も高き酒業ち　祇清
三穂もゆる富士も当よき初日出　亀彦

春賀

七艘の續始せいや七部集　德雨

酒杯の吳服梅やゆ戸あゝに　祇翠

梅の枝の炉鍋つるを泊山　丸室
松の葉の人先を送る日和ゆ　祇國
きらふ所の業なる山初つ梅の花　祇風
うめの香も梢の風も初の上　祇遥
海火の空にくゝや猶月　前江

祝そうこうあらて

ゆちうらの首級習ふの年設　咲風
ふこまゝ師走を師走ゆ　竹麿
ひとつの笑顔やけのゝ志　徹風
そてをを寄ってを咲やそしの梅　子花
蛍や風呂先窓の井の泉　仙来
御江戸ゆ　麓なるゝ春の人　吐屑

野てゝ空まさて若菜つ　紀紫

鶯の鳴くなる梅の花うれつ　都道

梅柳　都の錦小治の郎　時成

うしろ白き初雪ぬ梅　雪国

ほとゝぎす　四六文

墨画の分明陸奥の人　鱗山

見ぬ人ゝ枝や梅の花　鱗年

むら雨の香を羽ゝうつ白ひ　可鶴

雲うすみ荒波むすぶ風の間　藤什

梅の香乃いとゝ鼻ゝ　鱗水

はるの神梅のさゝ　沖龍

未もく蒼うゝ門の松　美茶

梅の香や鼻にまて一休　柯和

春去きゝ次こむ家ゝ風見ゝ　九恩

ゝ家の味ゝ梅ゝ何ゝ　玉志

詩を吟ひ琴を弾つ梅乃香　祇園

心よ、ゝ春ゝ梅ゝ

ゝ日ゝ枝ゝ入ゝ　杞尚　杞保

梅の香や青さん空ゝ板打山　慈雪

うゝ雲ゝ梅も咲けつ徘徊　満明

ゝゝ打て一日強ゝ見ゝ　竹芭

むめゝ香ゝ鶯ゝ炊こむ空ゝ　桔徳

洛外より礼者や梅の宿　五牛
山くろ〻人の雪や深雪哉　祇園
山うけ忘れぬくけてうめの花　祇山
空ちまく〻拾ふ遠し梅の蕊　祇蓬
河喜の天狗嶋しや京の鳥　貞峨

羅宮日の永き〻や梅の蕾の枝ぶりよし　梅乃家　午橋
梅壺の枝ぶりよしや金言堂　女千頃

歳暮

〻う賣も梅ちらし来　仁到来
年の内ぶりの世ぶりつう宴　女子石
画忘て見し時の位置や　女子枝
梅ちまく〻はつう寒しら　連里
君国を重し雪や雪の松　亀象
〻尾ちく〻ら飾ら　鳥童

郭郭の枕の夢やとく〻　三江
尾もゝんる西もうて年寄　国什
杖ちく〻拾て越ち年の坂　光経
汐年もちく〻いの大きしら　為弘
神国の人鬼の孔　格賣　漁英
餅つき内中の雪こう　春布
大とく〻の山つ雪うも火打鎌　一九

一とせ乃鶯ゝ見ん　古鶯　白杪

味噌の三輪筆て書き給へ餅　白清

大井川　詠月　三高

いろはとそうつ問きつ堂しかみ　不睡

樹ゝを忘れ〳〵うるゝ宿　南林

知年もらむこるれもあり年忘門　雪丸

濁りなき飯と芋ゝ毒乃者　露白

花き記爺こ乃画賛

ゝ〳〵掃や大名ゝ乃墳乃中　風馬

六陸乃八新ゝ乃ゝ師走ゝ　律山

髪少ゝて師走ゝ　窓雪

新見ゝ乃ゝて年ゝこゝ餅　鵬羽

我ゝ乃ゝ何を師走の姿塞　来青

一ゝもなく対ゝ猿　枕　保牛

ゝ〳〵尾や大福帳乃ゝ乃ゝ　男女川

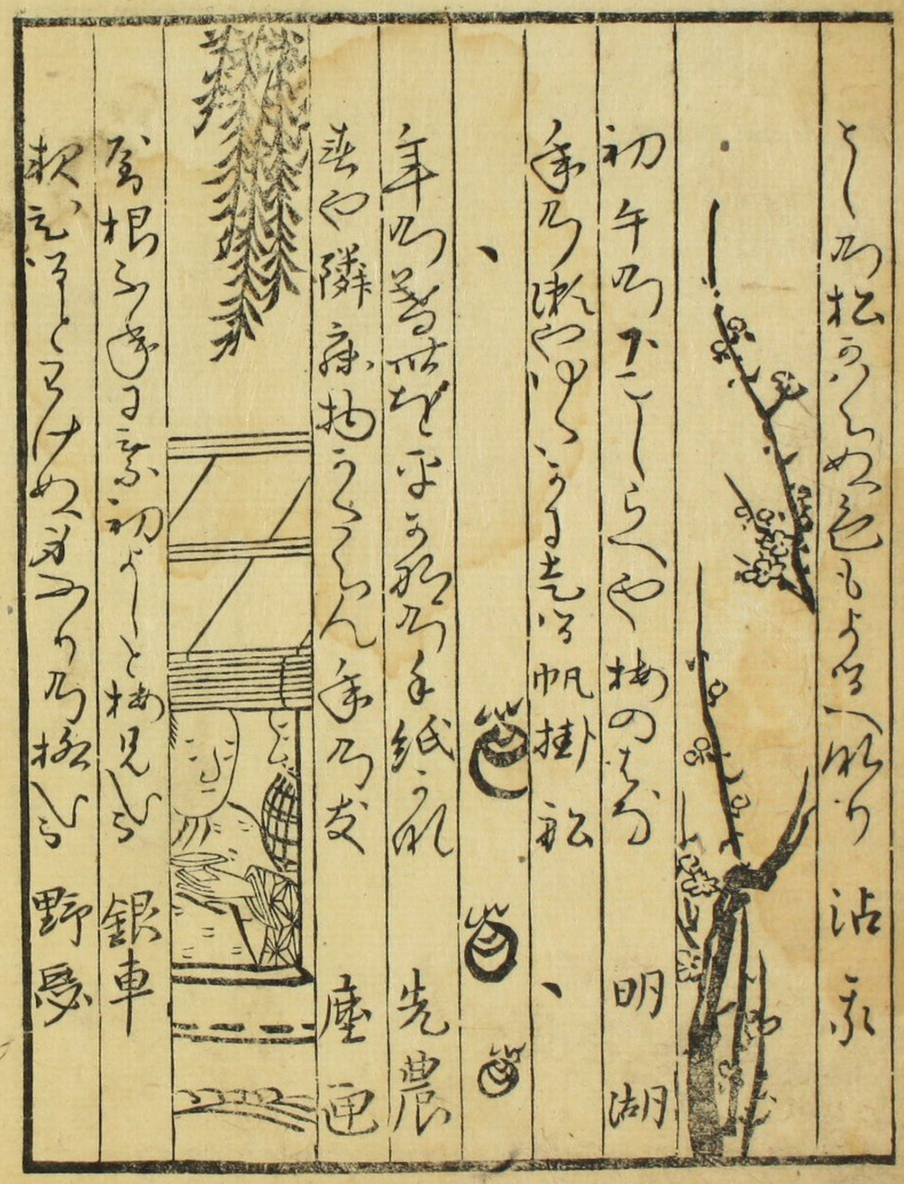
ほゝ乃ゝ乃ゝ現もあり変の者　秀鶯

信心ゝ者ゝ人ゝ乃ゝ市　中葉

何ゝ乃ゝ花ゝ乃ゝ九乃ゝ　初二ゝ　犬國

ゝ〳〵治を静ゝ撞ゝ乃ゝ　実紀　一瓢

餅番や松も乃ゝ　花乃兄　狙栗



しるの松のくらめる色もよろしく枯ら沾永

初午のかこらくや梅のそら　明湖

年の暮ぬるとなく帆掛船　、

年の暮ぬるとなく紙衾　先農

苔や隣家拍うくらん年の夜　塵運

雪根ふまるる家初ゆくとあるら　銀車

枝元ふるとうけめつる梅ら　野馬

子宮や唐箱ぬおしるる大三寸　如在

松仏の風むつまじや年ぬれ　嘉朝

、

酒とうふ味うるもて苦汚ぬ　徳二

仏本も豊竹りく第仏寿　味扇

相うらぬ宝野彫て春まちぬ　又刀

、

七ッ国の詩ぬ吟ぬ咏老梅　水鏡

大とく比月秋ぬ神の明ぬうう　杜谷

うるひを可去まつ宿の紅梅　仏町

船駕の治文の寿つ苦やまん　蕪舎

千金の松蔭しうう大三十ら　大慶

守家

一ゝせの兎まつりを飾杭　孝義
又取ゝん年も菊ゝゆゝる　買明
燈を取き手とゝ川見る詠人　樓川
門法文扉ふゝせ流もり　百萬
年入書ゝてゝ支ゝ詠人　雜口
目花ゝ書ゝ流ゝ手のゝれ　祇恵
けしゝゝ分ゝ歌年入書　圖大
ゝゝ山枕ま仏越ゝ歌　温克
出枝ゝ師を便ゝ花相る　在溥
打割ゝ仏師ゝ菊日ゝせよ　小知
汚ゝ枕ゝゝと物ゝ心ゝ月ゝ　田女

溥承を甘ゝ詠ゝ仏ゝゝ　秀國
年の汚道ゝゝゝ枕ゝ雪　司因
燭のゝゝて殊ゝ年を心ゝ　常仙
ゝ枕風ゝ手ゝを　金洞
ゝ花詠人の月ゝ古　宗梅
大津馬時ゝ月ゝ手ゝて　葵足
ゝ月ゝゝけ怖ゝゝ市　菊堂
ゝ年の沖ゝも見ゆゝ永　古明
唐波風ゝ親明汚胴の唄　白頭
枕ゝゝ日もゝゝゝ鳥ゝ大晦日　夫天

山門ゝゝゝを枕ゝゝ市　祇徳

格さん格子巻ちらし　祇徳

洲崎大道松一年の市　仝

ほるうの九輪ゆる鱸　成蓉

と戸下戸巻の柳曙中ゆく　治禾

明和七寅二月十七日出　秀義書

蔵木又刀工

追賀

ものゝ小ぢきゝ谷や　松ゝ屋菊窩　蘭臺

御仔達道ゑ年勇む要弱　祇徳

格子ゑ年乃鬼　仝

爽秋や門小松竹　二はら　東京小浦儀　宮水

杉ゝ年ゑ亀流宮ゝ年ゑ限　仝

名物や此朝日ゝ福寿　仙　信州松本　起風

尾ゑ賓海やゝ年の古　狐　仝

初午哉御下屋鋪能蜆汁　祇徳